

令和7年2月23日

回 覧

第13回寺子屋塾

「茅ヶ崎発展の功労者」

本村出身の初代茅ヶ崎町長「伊藤里之介」

早春とはいえ寒い日が続きますが、皆様いかがお過ごしですか。

毎年開催しております寺子屋塾も13回を数えることになりました。

今回は、1864年本村で生まれ育ち、辻堂の羽鳥村にあった「耕余塾」で学び、30歳の若さで茅ヶ崎村の村長に就任、14年間の村長の経験をいかし明治41年に鶴嶺村と松林村との三村合併で茅ヶ崎町を成立させ、その初代町長として就任し茅ヶ崎駅の開設をはじめ地域の開発に手腕を発揮、現在の茅ヶ崎市の基礎を築かれた伊藤町長のお話をさせていただきます。

記

日 時 令和7年4月12日(土) 午後1時30分より

場 所 東松山 海前寺本堂

講 師 藤田 修一氏

ちがさき丸ごとふるさと発見博物館友の会会長

ちがさきふるさと人物館スタッフ

参加費 無 料

主 催 東松山 海前寺

海前寺世話人会

(お願い) 参加ご希望の方は3月30日(日)までに海前寺へ住所・氏名をご連絡下さい。

海前寺 0467-51-2458



初代町長就任当時の伊藤里之助



明治32年ごろの茅ヶ崎駅

茅ヶ崎発展の功労者

本村出身の初代茅ヶ崎町長

「伊藤里之助」



伊藤里之助町長

1. 伊藤里之助とは？
2. 伊藤里之助 人物相関図
3. 茅ヶ崎村・松林村・鶴嶺村から茅ヶ崎町へ
三村合併の舞台裏
4. 茅ヶ崎停車場の開設 停車場はどこに？
(相模鉄道開設、幻の東海土地電気鉄道計画)
5. 伊藤家家系図(配布資料にはありません)

1. 伊藤里之助とは？

- ・元治元年(1864)生まれ～大正13年(1924)3月2日没 60歳
⇒今年2024年は、没後100年！
- ・茅ヶ崎村長 明治27年(1894)30歳～
- ・茅ヶ崎停車場開設 明治31年(1898) 山宮藤吉鶴嶺村長と共に
停車場設置願書を起草、別荘好適地でもあるとして伊藤博文に陳情
- ・別荘誘致 須田経哲(眼科医)、清浦奎吾(第23代内閣総理大臣)、土方久元
(土佐藩士・農商務大臣・宮内大臣)、花房義質(岡山藩士・枢密顧問官・日赤社長)、
箕作元八(西洋史学者)、坪井正五郎(日本初の人類学者)等の別荘用地取得斡旋・
家屋の補修・本宅女中の紹介
- ・南湖院 明治32年(1899) 高田畊安開業 用地取得斡旋
- ・初代茅ヶ崎町長 明治41年(1908)44歳～大正8年(1919)55歳
- ・茅ヶ崎電灯(株)設立 明治44年(1911) 電灯普及が著しく進展、発電所は
南湖に設置(南湖院は最大口需要家)。広田精一(電機学校(現東京電機大)・神戸
高等工業学校(現神戸大工学部)設立)の指導
- ・相模鉄道(株)創設 大正6年(1917) 茅ヶ崎駅と横浜鉄道橋本駅を結ぶ鉄道
(現在のJR相模線)を計画、専務 社長は岡崎久次郎(大日本自転車会社創立・相模
鉄道初代社長・衆議院議員)。
- ・純水館茅ヶ崎製糸所 大正6年(1917) 小山房全創業時、工場敷地取得
斡旋 本村伊藤家9代目清左衛門・十間坂浪二郎・勇等協力
- ・(株)茅ヶ崎座設立発起人 大正11年(1922) 芝居の興業、演奏会や映画上映
- ・海水浴場設置 駅開業と共に賑わい出す(大磯・鎌倉・鶴沼・片瀬同様)
- ・道路網整備 別荘人が日常的に利用する道路の改修費用不足分の負担交渉
進経太(石川島造船所取締役)・広田精一等が発起人

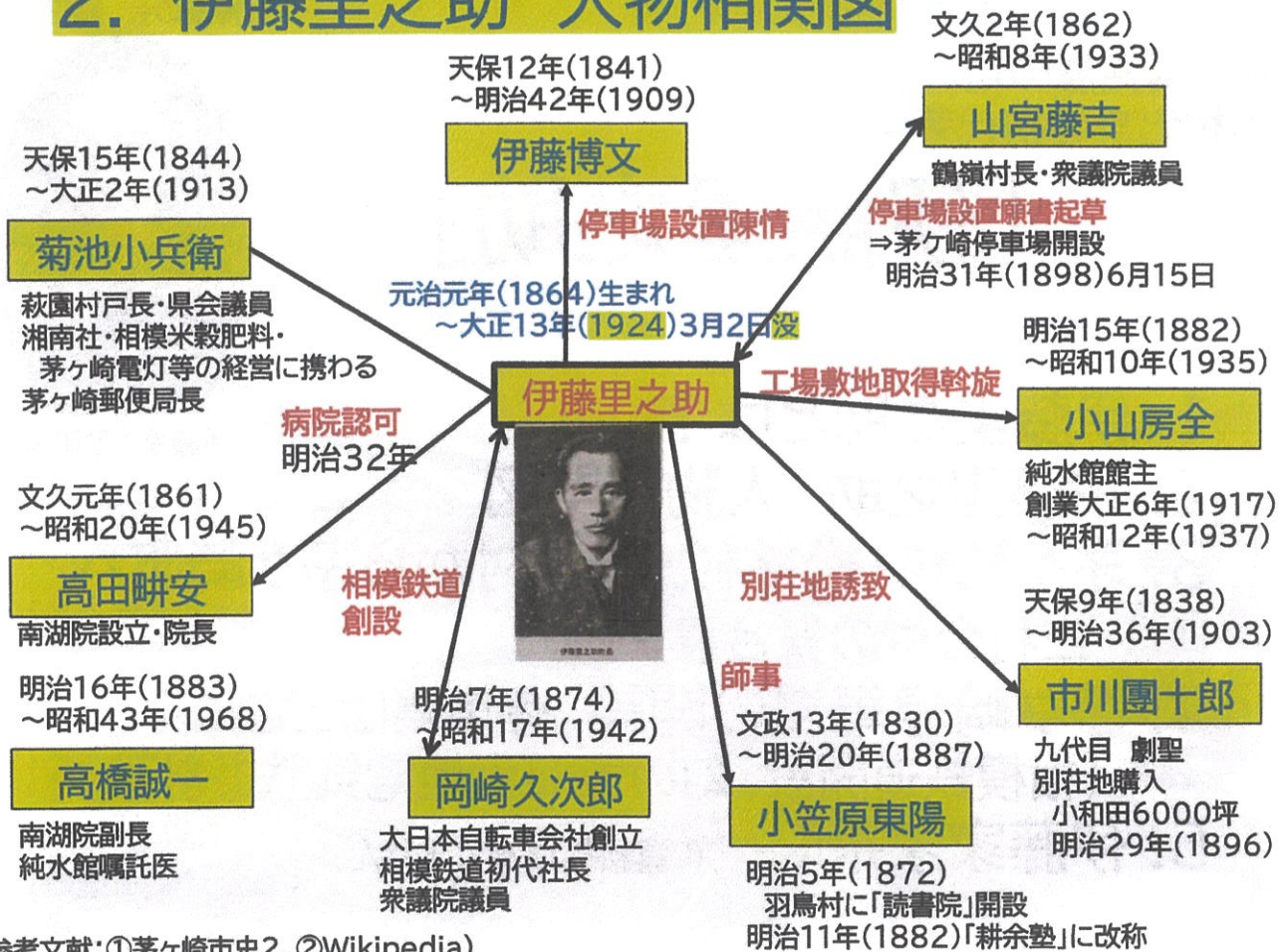


伊藤里之助町長



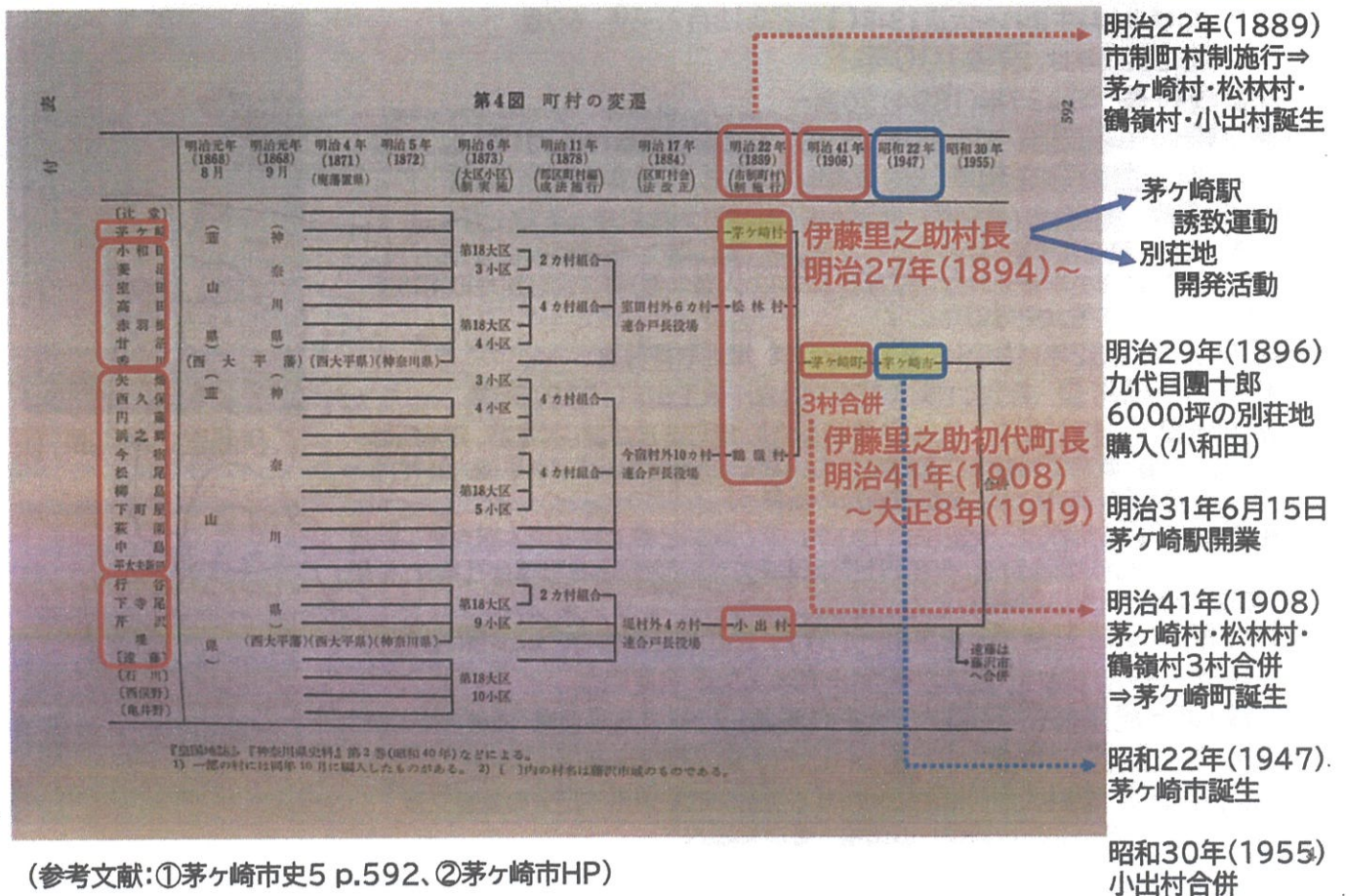
伊藤里之助と家族

2. 伊藤里之助 人物相関図



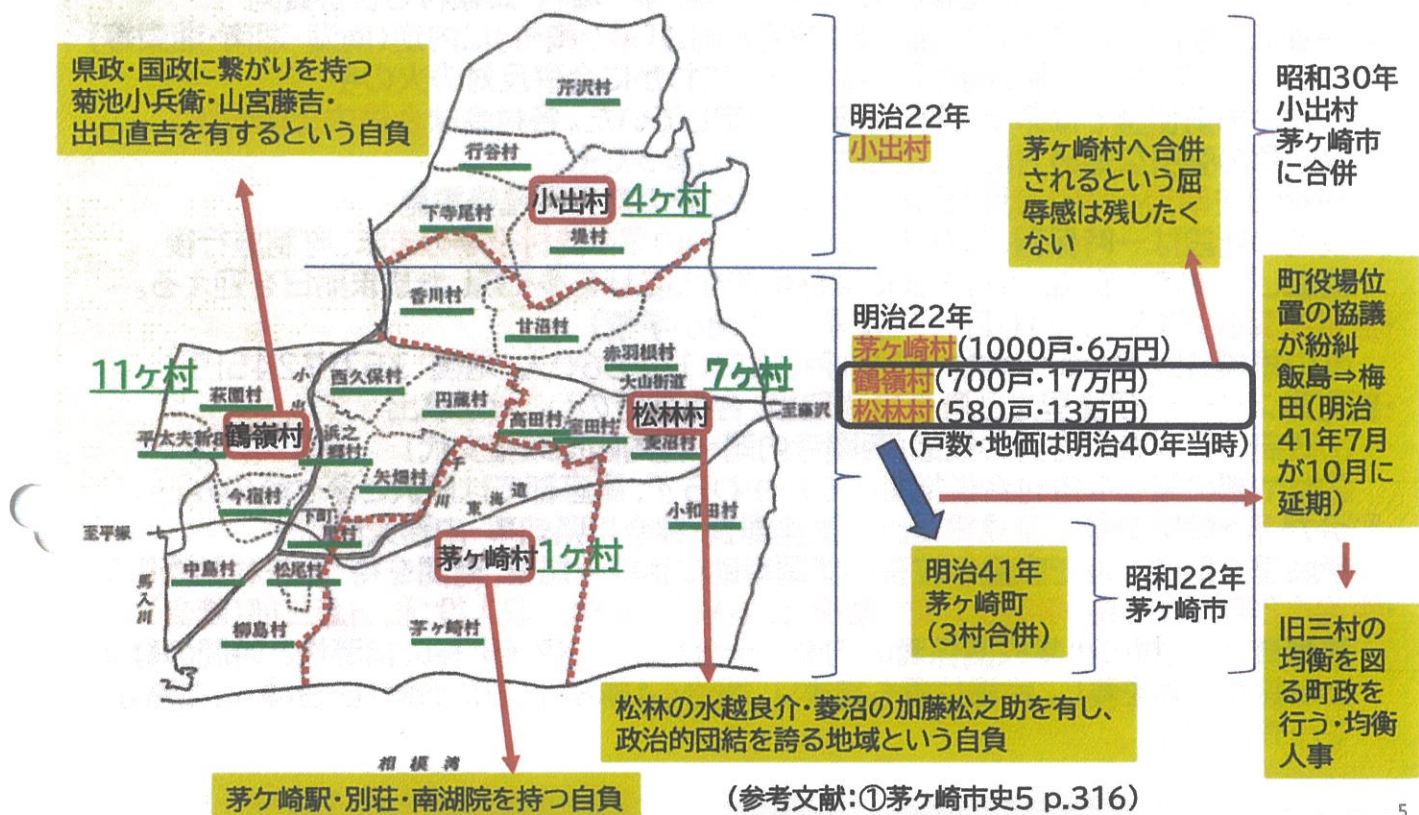
3

3. 茅ヶ崎村・松林村・鶴嶺村から茅ヶ崎町へ



江戸時代23ヶ村と

明治22年市制町村制施行当時の4ヶ村



明治41年 茅ヶ崎町誕生(三村合併)の経緯 (スライド4&5の補足説明-1)

- ・明治39年(1906):日露戦争後の財政難打開のため、政府は町村合併政策を打ち出した。⇒財政負担に耐える規模の町村に編成しなおす。
- ・明治40年5月:政府の基本方針を受けて神奈川県は町村合併要領を発表。
「戸数1000戸、地価20万円」を基準にした新しい町村に編成替え。
茅ヶ崎村(1000戸、6万円)、鶴嶺村(700戸、17万円)、松林村(580戸、13万円)、
小出村(530戸、15万円)⇒当地各村新町村基準以下⇒合併対象
- ・合併案
第一次:松林村・明治村(藤沢市)、小出村・御所見村(藤沢市)、茅ヶ崎村・鶴嶺村
第二次:茅ヶ崎村・鶴嶺村・松林村、
小出村・寒川村(寒川町)・御所見村(藤沢市)・有馬村(海老名市)
⇒村自体は合併を希望せず、最初から大きな困難があった
- ・合併工作(第二次案:茅ヶ崎村・鶴嶺村・松林村)
山や川などの自然障害なし、歴史的にも古くから交流あり、汽車の乗降は茅ヶ崎駅、
日用品の購入は茅ヶ崎駅前か茶屋町 ⇒ 県や郡から強硬な合併工作
弱小町村のままで、教育施設・土木事業・勸業奨励事業ができない状態よりも、
合併による財政規模の拡大を図り、事業遂行を進めることを説得
- ・合併による利益と三村の自負⇒詳細はスライド5
- ・村有財産の処理問題:茅ヶ崎村・松林村は村有地あり、鶴嶺村はみるべきものなし。
最大の村有財産は学校建物⇒茅ヶ崎小学校:最も老朽化、松林小学校:新築落成直後、
鶴嶺小学校:台・懷島の両尋常小学校を統合して尋常高等小学校建築計画進行中
⇒評価・調整が微妙な問題

明治41年 茅ヶ崎町誕生(三村合併)の経緯 (スライド4 & 5の補足説明-2)

・三村合併合意

明治41年(1908)2月:松林村会が合併決議、茅ヶ崎村・鶴嶺村も合併賛同

・合併期日:明治41年7月1日、新町名:駅名と同じ「茅ヶ崎町」に内定(南湖・湘南・湘東等)

・役場位置(知事告示):茅ヶ崎村「飯島」⇒ にわかに合併反対の火の手

三村の事前協議では茅ヶ崎村「梅田」で内定していた。各村会は**合併中止の決議**県や郡の強引な進め方に、火に油を注いでしまった形。

・合併期日を**明治41年10月1日まで延期**、各村間の意見調整後実施

役場の新設は一時保留、現状の南湖金剛院内の茅ヶ崎村役場のまま、町制施行後協議して決定で妥協。各村内部には感情的なしこりを多く残したまま期日を迎える。

・合併祝賀会:明治41年10月1日(会場:茅ヶ崎小学校)

町の規模:27.9km²、戸数:2291戸、人口:16,860人、地価:35万7245円

・新町政スタート:伊藤里之助町長事務取扱、合併強行のしこりが噴出

①政府の町村合併方針の後退(西園寺内閣⇒桂内閣に政権交代)

②県や郡の強引な町村合併推奨にもかかわらず、高座郡では藤沢と茅ヶ崎のみ。

・町会が茅ヶ崎町分離の意見書提出⇒高座郡長・神奈川県知事・内務大臣

伊藤里之助は知友で家庭学校長の留岡幸助に相談⇒慰留、時間を待つ。三村均衡町政

・明治42年1月:町長:伊藤里之助、助役:山本来助(松林)、収入役:和田節三郎(鶴嶺)

教育費:旧三村の小学校関係費の均衡に十分な配慮。伊藤町長の指導性と時間の経過とが徐々に効を奏し、役場位置も定まり、明治44年8月1日に新町(西石神)に二階建て庁舎が開庁。

7

4. 茅ヶ崎停車場の開設



伊藤里之助
茅ヶ崎村長

・明治20年(1887)

横浜-国府津間開通(藤沢、平塚に駅開設)

・茅ヶ崎に駅開設の要望

鉄道局に陳情「茅ヶ崎に駅をつくっても狐か狸のほかは乗るものもないだろう」

・明治28年((1895)

「鉄道停車場設置願」(伊藤・山宮等の連署)

・明治29年(1896)團十郎が別荘地購入

⇒駅誘致に役立つ

・停車場設置位置をめぐる南湖と本村の対立

◆南湖:立場、鮮魚、柳島湊、鶴嶺・寒川が賛成

◆本村:別荘誘致、海水浴場、松林・小出が支持

⇒鉄道局の見解:両者主張の場所は線路のカーブ地点で停車場位置としては不適當。構内拡張計画にも支障。両者のほぼ中間地点で決着。



開業当時(明治31年)の茅ヶ崎駅
(手前:藤沢方面、奥:平塚方面)

・北口駅舎、プラットフォーム

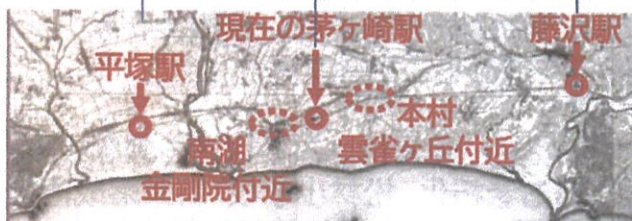
(約180mx2側)、貨車引込線

・駅周辺は甘藷畑とよし原

・用地は寄付。高砂村有地売却金で地主へ補償。余った金で①駅から一里塚、②駅から十間坂、③駅から南湖院への3道路を造った。



山宮藤吉
鶴嶺村長



明治29(1896)年~明治42(1909)年頃の地図

現在の地図

(参考文献:①茅ヶ崎市史5 p.290)

相模鉄道(現在のJR相模線)の開設

- ・大正4年10月 相模軽便鉄道計画:茅ヶ崎起点～寒川～海老名～相原～横浜線接続。19哩(マイル)半の鉄道敷設会社を組織、沿線町村の承諾書類調印済み。**発起人**:元鉄道院勅任技師鳥越金之助A・茅ヶ崎町長伊藤里之助B・伊藤清左衛門C等
- ・大正5年6月25日 相模軽便鉄道(株) 茅ヶ崎・橋本間の路線敷設免許下付
- ・大正6年 相模鉄道発起趣意書・起業目論見書(資本総額:60万円、株式:12000株)。発起人(170名) 引受株:2320株、茅ヶ崎居住者:890株(B,Cは各150株)
- ・大正6年12月18日 相模鉄道(株)創立(社長:岡崎久次郎、専務:B、常務:C)。岡崎久次郎:日米商店・大日本自転車社長、「鉄成金」、衆議院議員、現図書館北側に大別荘を構える
- ・大正10年9月28日 茅ヶ崎・寒川間営業開始(橋本までの開通は昭和6年4月29日)。神奈川県中央部を南北に縦貫、**東海道線と中央線を結ぶ**。人・物の集散の要としての厚木の地位が重要。鮎漁や温泉など**観光客の増加**。**相模川砂利の採取・運搬・販売**。
- ・昭和16年6月 東横電鉄傘下に。昭和18年4月 神中鉄道(横浜・厚木間)を合併。昭和19年6月 国鉄に買収される。



相模鉄道発起趣意書に掲載された計画路線図



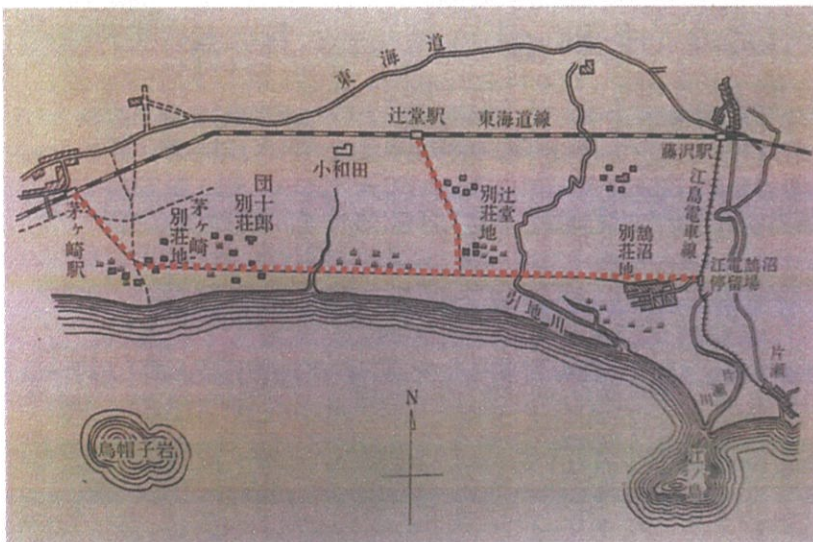
岡崎久次郎

(参考文献:①茅ヶ崎市史2 p.489、②茅ヶ崎市史4 p.616、③ Wikipedia)

9

幻の東海土地電気鉄道

- ①明治29年8月:湘南鉄道株式会社創立願 **発起人**:伊藤里之助・菊池小兵衛等5名 茅ヶ崎村～辻堂・鵜沼～片瀬・腰越・稲村ヶ崎～鎌倉(東海道線茅ヶ崎駅新設が前提)
⇒認可されず。(背景:明治28年10月に鎌倉鉄道(株)が相当部分重複した区間を先願。31年1月に藤沢～鎌倉間の仮免許、35年9月江ノ島電気鉄道として開業)
- ②大正11年4月:東海土地電気鉄道(株)が茅ヶ崎～鵜沼間の鉄道計画を申請、県は鉄道省に進達。
- 大正12年4月:東海土地電気鉄道の株式募集 **発起人**:伊藤里之助等39名
⇒別荘在住者にあてた株式応募の勧誘文
⇒大正12年9月の「関東大震災二ヨリ総テ終ル」



(かつて不発に終わった①の予定路線の西半分を継承したもの)

(本線)茅ヶ崎駅～團十郎別荘地帯～辻堂海岸別荘地帯～鵜沼別荘地帯～鵜沼停車場
(支線)辻堂駅～辻堂海岸

⇒ 鉄道省の認可が下りていた

(参考文献:茅ヶ崎市史2 p.487) 10